

## 沖島周辺漂着 ゴミ回収事業

びわ湖トラストで、びわ湖の大型ごみの清掃およびその分類を記録する活動は今回の沖島で、4回目となります。湖岸を清掃する活動は、各所各団体が盛んに行われていますが、人が寄りにくい場所、長年放置されてきたところや湖底を大規模に清掃して、分別記録を残している団体はたぶんびわ湖トラストだけではないかなと思います。



毎回、参加者や協力団体が増えています。今年10月23日に沖島周辺全域で行った清掃活動では、「NPO法人明るい社会づくり運動滋賀県協議会・立正佼成会滋賀教会・NPO法人瀬田川リバプレ隊・滋賀県立大学環境ボランティアLEAFS」との共同作業となりました。加えて嬉しかったことは、この事業を「沖島自治会」の皆さんが区の事業として、一致協力してくれたことです。総勢200名を超える参加者の皆さん。いっしょに良い汗をかきました。(立正佼成会おにぎり隊の皆さんのおいしいお昼ごはん、地元のできたて



ほよほよの佃煮(^^)疲れが取れますよ)だーれ、フナ寿司買った人???

通常は、収集したゴミを種類別に計量し記録しますが、沖島が観光地であり、当日観光客の皆さんに、ゴミの分別作業での埃や臭いなど、迷惑をかける事や、沖島から近江八幡の港に上げる場所の足場やスペースの問題があり、燃えるもの、燃えないものに分けました。概ね2t程度の処理ができたと思っております。最期になります。最終処理を引き受けて頂いた、近江八幡市役所の皆様、現場の調整に奔走いただいたNPO法人明るい社会づくり運動滋賀県協議会事務局長の梅田様(お疲れ様)に心より御礼申し上げます。

今年も良い出会いをありがとう。感謝!感謝!  
(山内 陽子)

## 情報交換事業 第1回 会員の集い

2011年11月13日(日)14:00~16:00、大津市の「コラボしが21」3階中会議室で、「第1回 会員の集い」を開催いたしました。限りない恵みをもたらしてくれる《びわ湖》の湖底・湖中の状況自律型潜水ロボット「淡探たんたん」のこと、びわ湖をとりまく山や川や野のこと...等々の情報をタイムリーに共有する場として計画しました。第1回の集いには、滋賀はもとより京都、大阪、兵庫、奈良から50余名の方々の参加を頂きました。ご参加いただきました皆様さま、お忙しい中、ありがとうございました。

### 第1部 《軽〜く勉強会!》

メインスピーカーに滋賀県高島市朽木で活動する「巨木と水源の郷をまもる会」の会員でもある朽木平良の猟師・松原勲さんを迎え、《朽木に暮らす》と題して朽木の森の巨木の話、今や害獣の烙印をおされている鹿の話等々をお聞きました。現場で山を守り、鹿と対峙している松原さんならではの話は大変興味深く、同時に深く考えさせられる話でもありました。

### 第2部《湖の恵みと山の恵みを食す・愉しむ》

続いてやはり朽木桑原の「山菜じゅうべえ」の西澤恵美子さん手作りの山の幸(小芋のからし和え、ずいきの酢の物、シカ肉じゃが、シカのポイ



ルスライスのそうめんかぼちゃ添え、シカ肉を使ったもみじカレー、露のとうのシフォンケーキ、近江野菜の漬物)、事務局準備の湖の幸(鮎のなれずし、えび豆、子持ち鮎甘露煮、小糸鮎山椒煮)、近江新米のおにぎり、そして近江の地酒(松の花・萩の露・不老泉・クレオパトラのわすれもの)、熊谷道夫氏提供の「岩間の清水」(岩間寺近くに湧く清水)、すべて近江の恵み!を愉しみました。

「会員の集い」は今後も、「びわ湖とともに歩いてきた近江の暮らし」のお話を聞いたり、びわ湖の現状を知る会として計画してまいります。

第2回以降も皆さまの多数のご参加をお待ちしております。

(西本 柳枝)

編集・発行：びわ湖トラスト 大津事務所  
〒520-0047

滋賀県大津市浜大津5-1-1

TEL・FAX：077-522-7255

URL：http://www.biwako-trust.com/

E-mail：biwako-trust@road.ocn.ne.jp

今回よりタイトルを「びわ湖トラスト事務局便り」から「びわ湖トラストたより」に改名しております。



# びわ湖トラストたより 2012年 新年号

2012年1月12日発行 通巻5号 NPO法人びわ湖トラスト

## 今年もよろしく御願ひします。理事長 山田 能裕

昨年は、びわ湖トラストとして初めての企画「会員の集い」を開催。これまでの諸活動を報告申し上げると同時に会員相互の親睦を深めさせていただきました。しかし、琵琶湖を取り巻く環境は、多くの問題を私たちに提示、その多くを積み残したまま新年を迎えました。

今年はその解決と、新たな課題への挑戦を敢行し、琵琶湖とその周辺の環境保全に尽くし京阪神1400万人の水瓶としての期待に応える所存です。その為、一人でも多くの方々に会員として参画頂き、琵琶湖と淀川水系の実情認識と、世界の誇りうる環境保全の確立に絶大のお力添えを賜りたく存じます。



曲面絵画「比叡山 輝く夕」  
ブライアン・ウイリアムズ 2011年作

## 本年度の活動概略と今後の予定

- 平成23年
- 4月1日 当NPOホームページを刷新
  - 5月15日 第5回通常総会・定期講演会(大津)
  - 5月16日 地球環境基金によりトチノキ・プロジェクトが巨木と水源の森をまもる会と本格調査開始
  - 8月11日 第1回カヌー親子環境体験学習(雄琴)
  - 9月05日 megumi内で当NPO環境活動講演会
  - 10月01日 第1回MEGUMI親子環境体験学習
  - 10月23日 第3回湖岸のゴミ調査回収(沖島)
  - 11月13日 第1回 会員の集い(大津)

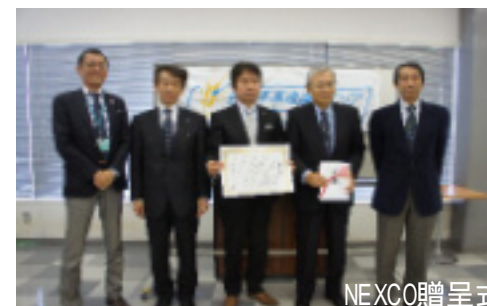
- 平成24年
- 1月第1週 第4回淡探湖底調査
  - 1月23日 当NPOの環境活動講演会(大阪)
  - 2月~3月 湖水浄化プロジェクト  
柳が崎で試験開始
  - 5月中旬 第6回通常総会及び定期講演会

イベントへの会員参加、大歓迎です!!  
是非ご検討くださいませ。

## 活動支援ご協力ありがとうございます (以下 あいうえお順・敬称略)

西日本高速道路エリアパートナーズ倶楽部  
(当NPOの全活動を支援)

- 株式会社叶匠壽庵
- 近畿日本鉄道株式会社
- 株式会社グランビスタ ホテル&リゾート
- 株式会社ダイナック
- 西日本高速道路サービスホールディングス株式会社
- 西日本高速道路ロジスティクス株式会社
- 株式会社松屋フーズ
- ユーシーシーホールディングス株式会社
- 公益財団法人 平和堂財団 (環境教育支援)





# トチノキ保全プロジェクト

地球環境基金助成金事業



2010年秋、琵琶湖北西部（滋賀県旧朽木村）にこれまで残されていた胸高直径1mを超えるトチノキの巨木（樹齢150～800年）が、材木業者によって大量に伐採されているという事態が発覚しました。そこで、一部山林所有者、地元住民、学識経験者らが嘉田由紀子滋賀県知事に中止を請願するという出来事をきっかけに始まった「トチノキ保全プロジェクト」ですが、今年度、地球環境基金や西日本エリア・パートナーズ倶楽部の助成を受けて、本格的な巨木調査と保全に向けた活動を行いました。



巨木の伐採根（胸高胴回り推定9m弱）

びわ湖トラストだけではトチノキの巨木が存在すると思われる私有林を勝手に調査することもできず、また調査ができる人材もいないので、地元市民団体「巨木と水源の郷をまもる会（代表：青木繁氏）」の全面的な協力の下で、トチノキの巨木があると言われている地域に絞って航空写真の撮影を実施し、その航空写真からトチノキの白い花を確認することで、トチノキを含む巨木が存在していると思われる地域（急峻無道のV字谷）



の調査を実施しました。調査は計31回実施（12月17日時点）し、見つけた巨木はGPS機器で位置情報・巨木情報を記録しながら、植生状況も含めトチノキやカツラ等の巨木を304本（内トチノキは237本）確認することができました。また、現地調査と並行して、巨木と水源の郷をまもる会の意見交換会に、これまでに5回出席（事務局、理事等



トチノキの胸高胴回り測定状況が出席し、調査活動報告や、今後の活動についての意見交換を行っています。今後は、トチノキの巨木の後継樹を育てるための植林活動も行っていく予定をしておりますが、それだけではなく、鹿害問題（鹿が、背丈より低い緑葉を全て食べてしまう）の解決に向けた取り組みや、巨木林の健全な保全・再生活動に取り組みつつ山里の暮らしを活性化する仕組みを作るためには、地元密着して活動している巨木と水源の郷をまもる会との連携や、地元住民の方々との話し合いが重要となっております。

最後に、たった半年間で31回という数の調査の実施と304本もの数の巨木を把握することができたのは、巨木と水源の郷をまもる会代表の青木氏をはじめ、33名（地元住民、熊森協会メンバー、大学生（京都大、滋賀県立大）、当NPO会員）の調査員のおかげです。ご協力頂きました調査員の皆様、ありがとうございました。

（佐藤 智宏）



県下No.1のトチノキの巨木  
これからも護りたい琵琶湖水域の水源の母樹（朽木）

# びわ湖環境体験プログラム

親子で楽しく学べる体験型プログラム～の開催

カヌーに乗って ～平成23年8月23日～



「びわ湖にふれよう！～カヌーに乗って、びわ湖の生き物を調べよう～」を開催しました。大津市雄琴にあるオーパルオプテックス（株）の主管の元、カヌー体験、水草調べ、採取した水草を使ったパウチ作り、プランクトンの観察など、5家族13名の方が参加し、夏休みの1日を親子で楽しく学びながら過ごしていただきました。はじめての子供もやがて音もなく行きたい所へスイスイ進み親子でVサイン。

食事後は採取したプランクトン等を滋賀県立大の巖先生等の指導により顕微鏡で観察。透明だった水滴に、ピントが合って動く微生物がいることにまたまた感激。参加した皆さんに喜んで頂きスタッフも感激でした。



megumiに乗って ～平成23年10月1日～

公益財団法人 平和堂財団の助成を受けて「megumiに乗ってびわ湖の水について学ぼう・秋の親子びわ湖環境学習会」を開催しました。好天に恵まれ、大津港から太陽電池を搭載した琵琶湖汽船のエコ客船megumiに、22グループ（大人34人・子ども35人）が乗り込み、南湖と北湖で琵琶湖環境科学センターの水中カメラを駆使した湖中探査や立命館大学の中島先生による水質試験とプランクトン観察を親子一緒になって体験していただきました。



また、琵琶湖汽船の桂取締役から「琵琶湖の深呼吸」の説明と実験、琵琶湖環境科学センター熊谷先生から「琵琶湖の七不思議」など、子供たちにもよく分かるように話していただきました。また竹生島に上陸して1時間余りの自由参拝と散策、帰りの船内では、びわ湖に関する「ナゾナゾ遊び」などを楽しみました。参加したすべての方から他の方にも紹介しても良いとの心強いアンケート結果をもらいスタッフ一同感謝しています。左記の「カヌーに乗って」も合わせ今年も継続しますので、琵琶湖の水を飲んでいる親子にご紹介願ひ、楽しく琵琶湖の環境を学んで頂き、琵琶湖をキレイに明日に繋げる活動に御参加願ひれば幸いです。



（浅野 昌也）

